

ほとけの混和会だより

令和五年十二月
東光院
仏の混和会

第169号



明けの明星

十二月八日、東の空に輝く明けの明星を見てお釈迦様はお悟りに成られました。よって仏教者にとつてこの日はとても大切な日と定めております。

お釈迦様はインドの釈迦国の王子として生を受け、カピラバーストウと言うお城の中で何不自由の無い生活をお過ごしおられました。

しかし釈迦国は元より国外の人々も病や紛争など様々な苦しみに、もがき

苦しんで居たのでした。王子様は、「人々の苦しみや争いを無くし、安心に満たされた幸せな生活を営むにはどうしたらよいか」、などと何時も思案にくれていました。

そして王子様は自国だけで無く、他国の人々もみんなが幸せに成る真理を求め、王位継承の地位を捨てて出家されたのでした。

その後六年間の苦行のすえ十二月八日、明けの明星を見て王子様は真理に目覚め「ブツダ」と成られました。

そのブツダの悟られた真理は大自然大宇宙の真理で有り、一言で言い表す事は出来ませんが、今言える事は、私達人類も大自然の一部として自然の営みに抱かれ生かされて居ると言うことです。

大変難しい事でありますが、大自然の営みに身を

をゆだね共に生きる慈愛心を抱こうと発心された時、仏様はその清らかな心の成長を見守り、様々な災難からお守り下さいます。又私は万人を慈しむ慈愛心によって真の幸が得られると信じております。

私は守られて居た

実は、私が僧侶に成る為の最初の修行を岡山県の明王院と言うお寺で二十三才の時に勤めさせて頂きました。

そのお寺は山のふもとにあつて七堂伽藍の整つたととても景観の良いお寺です。

この修行は己のわがままな自我を滅して仏心に目覚める為の修行で有ります。よつて本尊様は牙をはわした大変厳しい形相のお不動様です。

そのお不動様と対面しながら四十五日間小さなお堂に籠もつて修行します。

その生活は午前二時早朝の水行、要するに小さな井戸にロープの付いた桶を下げて

水を汲み数十杯の水をかぶり身を清めます。

その後、山の中腹に有る仏様にお供えする神聖な井戸の有るところまで登り、水を汲んで持ち帰り、その水を仏様にお供えして一日が始まります。

ある日、私はちよつと寝過ぎしてしまい、目が覚めたらお堂の前に数台の消防車が赤いランプを回転させながら大騒ぎをしていました。

私が仏様にお供えする水を汲む時間帯に台風により井戸の有る所に大きな岩が沢山転げ落ちて来たのです。

大勢の消防隊員は私が土石流に巻き込まれたと思ひ私を捜索していたのでした。

私は、居眠りをしていた事が恥ずかしく、このお話はだれにも話さずにおりましたが、これは恥ずかしい事では無い、私はお不動様に守られたのだと思えるように成りました。

合掌亮観拝



日本仏教に登場する仏様を毎月少しずつご紹介。先ず秋の彼岸法要を欠席し申し訳御座いませんでした。昨年に続き富山県立山町に伝わる伝統法要儀式「布橋灌頂会」への出仕以来を受け留守にしておりました。「布橋灌頂会」については昨年ご紹介したため、今回はこの儀式に関わる「おんばさま」を紹介いたします。

●おんばさま (姥尊)



木造 姥尊坐像

富山県立山町は全国に残る姥尊信仰の発祥地であり、この地のみで使われると、媯(ひめ)という独自の漢字を用いり、古来より親しみを込め「おんばさま」と呼ばれ信仰されてきました。特徴として片膝をついて座る老婆の姿をしており、その昔富山県の険しい立山に「一切諸仏の母」として左手には五穀の種(米・麦・アワ・キビ・豆)を、右手には麻の種を持った老婆が降り立ち、これらの人々に広め食物と麻から衣類の作り方を伝えた仏(地母神)と知られております。そして人々に生きる術を伝え与えたのち、あの世で人

の生死を見守る存在と生まれました。立山の山は全ての者の生死を司る霊山とされてきた事、その地に現れ人々を救った老婆に女性達は救済を求め「布橋灌頂会」という儀式が始まり、おんばさまは女性を護り導いてくださる特別な存在として全国の女性から信仰されていたと伝わっております。

おんばさまは立山町を流れる川を三途の川に見立てた川向こうをあの世(極楽浄土)とし、そこに建てられた姥堂内に弥陀三尊(阿弥陀如来ら三尊)の代わり彌陀が三尊祀られ、その周りに当時日本にあった6カ国に合わせ6体の姥像が祀られておりました。しかし明治の廃仏毀釈により姥堂は取り壊され、姥像の多くは離散してしまいがちですが、解らなくなっておりますが、場所によっては三途の川に居られる脱衣婆として祀られ、現在は町内に22体の像が戻り安置されております。

お近くへ行かれる事がありませんでしたら是非お参りください。※今年度の布橋灌頂会の様子はこちら↓



仏教 × SDGs 地球は今 危機的状況下に有ります。 (Includes a grid of 17 SDG icons and a red banner with the text '地球は今 危機的状況下に有ります。')

今年は大変な猛暑でした。又十一月は霜が降りる月で有りますが、未だ霜が見られません。これは地球温暖化の影響のようです。今、地球環境は人類存続の危機的状況下に置かれていくようです。

このような状況下に於いて私達は如何に生きて良いのか、改めて中村哲様の言葉を左記に紹介させて頂きます。 ◎自然の許すもので自分が満足する謙虚さや欲望の少なさが求められます。大変難しい事であり、謙虚に務めてまいりたいと存じます。 亮観拝

自然と私達、そして人と人 共に生きて、共に生かされ 共に活きる。



日曜祭日に設定した、サツマイモの収穫祭、そしてお蕎麦の収穫に脱穀等は悉く雨、日頃の行いの悪い私のお陰で皆様には大変迷惑をかけてしまいました。大変申し訳なく思っております。

しかし、お蕎麦の収穫は平日にも係わらず沢山の皆様のご協力を頂き無事終える事が出来ました。又脱穀にしましては、細井さん勝行さん晃さんこの三人で全て脱穀して頂きました事心より御礼申し上げます。合掌亮観拝